

古関東深海盆ジオパーク推進協議会長 殿

国立大学法人茨城大学長

太 田 寛 行

(公印省略)

予備調査結果について (通知)

貴殿より頂いた不正行為に係る通報については独立行政法人日本学術振興会から本学に回付されたところですが、国立大学法人茨城大学における研究活動上の不正行為等への対応に関する規程第 23 条第 4 項に基づき設置した予備調査委員会において、調査を行いました。

調査結果について、下記のとおり通知します。

記

(1) 通報内容

科研費に基づく以下の 4 論文について、酸素同位体比データ及び古地磁気データに関わる不正行為の疑いがある。

I. Okada et al. Earth, Planets and Space(2017) 69:45

(Paleomagnetic direction and paleointensity variations during the Matuyama-Brunhes polarity transition from a marine succession in the Chiba composite section of the Boso Peninsula, central Japan)

II. Suganuma et al. Quaternary Science Reviews 191(2018) 406-430

(Paleoclimatic and paleoceanographic records through Marine Isotope Stage 19 at the Chiba composite section, central Japan: A key reference for the Early-Middle Pleistocene Subseries boundary)

III. Simon et al. Earth and Planetary Science Letters 519 (2019) 92-100

(High-resolution  $^{10}\text{Be}$  and paleomagnetic recording of the last polarity reversal in the Chiba composite section: Age and dynamics of the Matuyama-Brunhes transition)

IV. Haneda et al. Earth and Planetary Science Letters 531(2020) 115936

(Millennial-scale hydrographic changes in the northwestern Pacific during marine isotope stage 19: Teleconnections with ice melt in the North Atlantic)

(2) 通報対象者

岡田誠理学部教授

(3) 調査結果

通報書類及び 4 論文の精査の結果、複数の論文の間で引用データが若干食い違うことは確認したが、これらの事案は、本論文の結論には影響を与えない軽微なものであり、不正行為には該当しないと判断した。

また、著者らは、それら分析・引用データを検証可能にするための詳細数値データを既に公表していることから、仮に論文の内容に修正の必要があるとすれば、各対象ジャーナルへ公開質問状を提出していただき、それに論文誌上で著者たちが返答する、いわゆるコメント&リプライ方式、あるいは、訂正や補足を著者たちが論文誌上で公表する、などの解決策が考えられる。

【本件担当】

研究・社会連携部

